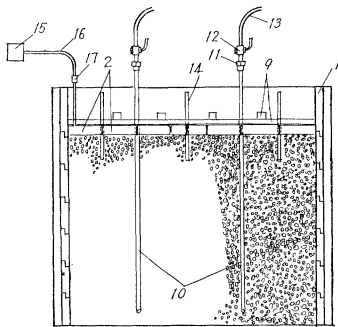


プレバクト コンクリート打設における粗骨材の浮き上がり防止法

特公昭 37-9428

発明者 松本 石秀

プレバクト コンクリート工法によってコンクリートを打設する場合、粗骨材上表面が自由表面であれば、圧入モルタルによって粗骨材の上層部が持ち上げられるため粗骨材が浮き上がり均一なコンクリートを得ることは困難となる。この発明は、あらかじめ型わく内に投入した粗骨材表面にゴムその他の柔軟な中空袋(2)を一様に連結して配置し、粗骨材層にグラウトパイプ(10)からモルタルを圧送する際、中空袋(2)に空気または液体をポンプ(15)にてパイプ16を通じて圧入する。この時中空袋上方に設けられた押えのり(9)のため、中空袋(2)は粗骨材表面を押し下げる圧力を加える。この圧力のため粗骨材は浮き上がることなくモルタルは十分空気を満たし均一なコンクリートを得ることが可能となる。なおこの発明によれば必要に応じた所要圧力を任意に与えることができる利点もある。



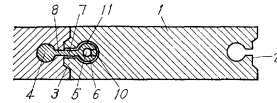
鉄筋コンクリート製矢板壁の継目の水密施工方法

特公昭 37-11382

発明者 長井 信治

本発明は鉄筋コンクリート製矢板を継ぎ合わせて構築された壁体の継目を水密にする施工方法に関し、矢板(1)の側縁に沿って設けられた凸条側(3)と隣接矢板の凹溝側(2)とを係合

させ、凸条側(3)に設けられた案内溝の膨大部(10)に凹溝側の中心に埋設された可撓材から構成された板状体(8)の先端の膨大部(6)を嵌合し、板状体の膨大部(6)にはあらかじめその中心に、下端が矢板の下端付近に達し下端付近において横孔によって外部に連通された縦孔(5)を設け、両矢板を係合して打込んだのち、この縦孔(5)を通して、両矢板間の接目間げき内に膠泥物を圧入するようにしたものである。圧入膠泥物は縦孔の下部に設けられた横孔から間げき部を満たし、さらに圧入を続けると上昇して、間げきから越流し、充填が完全に行なうことができる。

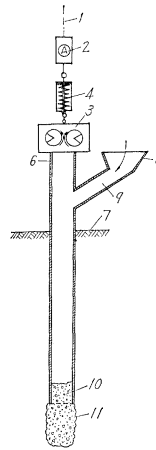


振動打ちによるコンクリートまたは鉄筋コンクリートくいの現場造成法

特公昭 37-12178

発明者 村山 朔郎

本発明は振動くい打装置によってコンクリートまたは鉄筋コンクリートくいを現場で造成する方法に関し、吊下索条(1)の下端に衝撃緩和装置(2)を連結し、その下方に振動くい打装置(3)と同調して振動する共振弾機(4)を介装したくい打装置によって、外管を土中に打込んだのち、外管内にコンクリートをホッパー(8)、樋管(9)を通じて注入し、振動機を作動させながら外管を抜き上げ外管内のコンクリートを外管下端の空けきに放出しつき固めるようにしたものである。振動装置の振動と同調して振動するような弾機を衝撃緩和装置と振動くい打装置との中間にそう入連結して瞬間的に弾機の反発力によって外管を急速に上方に抜き上げてコンクリートと外管との付着をなくしコンクリートを残して外管が上方に抜き上げられる。



従来振動くい打装置によってコンクリート現場くいを造成するにはコンクリートと外管との付着のため、別に重錘を外管内にそう入してコンクリートを押し出す必要があったが、本発明は共振弾機のそう入連結により解決したものである。

(特許庁審査二部 荒木 達雄)

“日本機械学会賞” 昭和 37 年度募集について

日本機械学会では、昭和 37 年度の“日本機械学会賞”を、機械学会会員およびその他一般から募集しております。推薦または申請には所定の用紙が必要ですから詳細は日本機械学会へご連絡下さい。

1. 応募対象：機械工学・工業に関する論文および製品（機械・器具・装置など）とする。論文は原則として昭和 36 年 10 月以降、昭和 37 年 9 月末日までに発表されたものとする。
2. 提出締切日：1962 年 10 月 25 日（木） 16 時までに着信
3. 提出先：社団法人 日本機械学会 日本機械学会賞委員会 東京赤坂郵便局区内港区走赤一ツ木町 89（日本規格協会ビル内）電話（481）4265・7913・7937